

## 川や海への影響

一見、柳瀬川も空堀川も透明な水が流れ、きれいな川に見れますが、よく見てみると水底には空き缶・川岸にはビニール袋やペットボトルが、木々の幹や枝にはいろいろなゴミが、からみついています。

「川づくり・清瀬の会」や他団体が、一生懸命ゴミ拾いをしています。川からはゴミが無くなりません。

川を綺麗にすることは、人々の心を綺麗にすることにつながり、野生生物の命を守り、自然を大切にすることにつながります



河川清掃で集められたゴミ



樹木や杭にからみついたゴミ

ゴミには、意図的に捨てられたゴミと、人の不注意や風などによって川に入ってきたゴミがあります。

それらのゴミは、水の流れに乗って海に下っていきます。海に出たごみは、海底に沈むか、漂流し世界中に散らばっていきます。

集まったゴミは、美しい川や海の景観を壊し、川や海に棲む生物の生活を脅かし、最悪は死に至らしめます。そして最後には人間にも害を及ぼします。



海洋を漂うゴミ



海辺に打ち寄せられたゴミ

## 生物への影響

海や川に棲む生物たちにとってそこは、家であり庭であり日常を平穩に過ごしている生活の場所なのです。

好きな時に食べ・眠り・生活していた場所に、周囲にたくさんのゴミが漂い集まり、いつの間にか囲まれてしまいました。

でも、生物たちにとってゴミが危険なものだとは解りません。



いつも通りの生活をしていたら、ゴミを餌と間違えて食べてしまい、呼吸をしたら物が鼻につまってしまいました。



シーラカンスの胃から出てきたゴミ

(写真提供：ふくしま海洋科学館)



ミイラ化した鳥の体から出てきたゴミ



魚の胃から出てきたゴミ



死亡して漂着したオウギハクジラを解剖すると、胃からプラスチックゴミが出てきた

(写真提供：マリンワールド海の中道)

## マイクロプラスチックの問題

海洋ゴミのおよそ70%がプラスチックごみとされています。



その中でも、5mm以下のサイズの物をマイクロプラスチックと呼んでいます。化粧品の洗顔材や工業用洗浄剤に含まれる元々小さいものと、紫外線や風や波などの影響を受けて細かく破碎されてきたものがあります。



マイクロプラスチックは、有害物質を吸着する性質があり、それを食べた生物が体に障害を起こし病気になり、体内に蓄積していきます。次に、その生物を食べた他の生物が同じように、体に障害を起こし病気になり、体内に蓄積していきます。どんどん同じことが繰り返され、その被害は最終的に人間にまで及びます。

## 私たちにできる事

皆さんもよくご存知ですよ。

環境汚染の低減・資源の有効利用として、3R（Reduce・Reuse・Recycle）が提唱されてきました。

リデュース：プラスチック製の袋や包装などを使わずに、エコバックなどを使ってプラスチックごみを減らすことです。

リユース：ガラス瓶など洗って再利用することで、プラスチック容器などのゴミを減らすことにつながります。

リサイクル：ガラス瓶・プラスチック製容器や包装、などを形の変えた別のものとして作り変え、再利用することです。

地球上の限りある資源を大切にそして有効的に利用するために、私たち個人個人が、もっと具体的に実行できることがあります。

- ・プラスチック袋を使わず、エコバッグ（トートバッグなど）を使おう
- ・川でゴミを見つけたら、拾って片付けよう、捨てる人がいたら、注意しよう
- ・ゴミはしっかり分別し、捨てる日、捨てる場所を守ろう